◎第八回國際道路會議報告書作製委員會

第五部小委員會

六月十四日午後五時丸ノ內帝國鐵道協會に國際道路會議第五部小委員調査會を開き小澤內務技師主査となり島田、伊藤、杉浦、金子各委員都築幹事出席、スツリート及ハイウエーの路表に於ける反射並に副反射のインテンシー、走行車輛の安全性コレクション等より光りの入斜角度と滑りの關係其他今後の道路築造に重要なる種々の事項に關し各自の調査を持寄り討究四時間半にして今日迄の試驗關係を纏め次回（十七日）迄に各自スタンダーし尙伊藤委員より米國最近の光りに關する調査を參考に併せ說明を求めて成案を急ぐことを申合せ午後十時散會。（都築記）

第二部委員會

第八回國際道路會議報告書作製委員會第二部委員會は昭和十二年六月十六日午後五時より丸ノ內鐵道協會に於て開催、岩澤委員長、加藤主査、委員、西川、河合、山本、高橋、渡邊、森、大道、黑澤、遠藤、福島（嘉雄）、福島（彌六）の各委員出席、岩澤委員長開會の挨拶をなしたる後、森、山本、渡邊、西川、遠藤の各委員より分擔事項の經過報告あり、協議の結果、六月二十四日までに原案を作り各委員に配布し、二十九日、三十日の二日間右原案に就て研究し報告書を作製することに決定、午後八時散會。

尙、岩澤委員長より黑澤委員洋行さるにつき其の代理として日本石油株式會社技師林茂氏を委員に依賴するとの報告ありたり。

第五部委員會

第二調査部第五部委員會は六月十五日午後五時より帝國鐵道協會に於て開催、島田、小澤、金子、三好の各委員及

都築幹事等出席。路面滑度試驗報告書の內容項目を外國及國內に分つことに決定。島田委員より同試驗の結果を報告午後八時散會。（三好）

第一部委員會

第八回國際道路會議報告書作製に關する第一部委員會は、昭和十二年六月十七日午後五時より丸ノ內鐵道協會に於て開催、佐藤委員長、大石主査、金子、佐藤、佐野、折坂、星野、狩野、藤井、勝海、神澤の各委員及都築幹事出席、佐藤委員長より開會の挨拶ありたる後、大石、藤井、佐藤、金子の各委員より各自分擔調査事項の報告あり、協議の結果、右の調査報告は大石、金子、佐藤の三委員にて取纏め、報告書案を作製し六月末委員會を開催し審議することに決定し、午後八時散會。

◎第二調査部各部委員長並に主査會

第八回國際道路會議報告書作製に關する各部委員長並に主査會は昭和十二年六月十八日午後五時より丸ノ內鐵道協會に於て開催、藤井第二調査部委員長、大石第一部主査、岩澤第二部委員長、加藤第二部主査、金子（源）第三部委員長、鈴木（清）第三部主査、菊池第四部主査、金森第五部委員長、小澤第五部主査、山田第六部委員長、藤森第六部主査、佐藤（寛）第一部委員、松村第五部委員及び都築幹事出席、藤井第二調査部委員長より開會の挨拶あり、各部委員長又は主査より各部分擔報告書に關しての進捗情況を詳細に報告あり、大體に於て各部とも六月中に報告書を取纏め七月末日までに英文報告書を作製し、パリ國際道路會議事務局に報告することに決定し、午後八時散會

◎水野本會長古稀祝賀

六月二十一日午後五時上野精養軒に於て開催、式場には壁間高く中澤弘光畫伯執筆の水野博士並水野令夫人の油繪がかゝげられ其の中間卓上に朝倉文夫氏の作に成る壽像が安置せられた、定刻に至り參集する者實に五百人を超ゆ法學博士松波仁一郎氏委員長として式辭を述べられ、全國神職會太田眞一氏經過を報告、次て松波委員長は水野博士に記念品を贈呈す、近衞內閣總理大臣の祝辭は風見內閣書記

官長代讀し、湯淺內大臣は出席祝辭を述べらるゝ豫定なりしも事情の爲出席不能となりたる旨の挨拶が報ぜられ秋田縣知事外百七通の祝電ありと報告ありて水野博士は謙讓なる挨拶を述べられて閉會を告ぐ、午後七時から祝宴が開かれ松波委員長再び立ちて挨拶され水野博士答辭せられて元田樞密顧問官に依つて水野博士及一家門の萬歳が三唱せられて後隨意退散した。

◎近刊の圖書雜誌

○三田學會雜誌（一卷五月號）（六月號）
（奥井復太郎氏＝職業構成に現はれた地域性「五」）

○大阪商工會議所月報（六月號）
（武田鼎一氏＝如何にして物價を抑制すべきか。本邦鐵鋼業の需給現勢）

○電氣通信學會雜誌（一七〇號）

○乘合自動車（一一卷五號）
（坂本行軸氏＝大阪市に於けるバス統制に對する意見）

○土木建築工事畫報（十三卷五號）
（田島治身氏＝愛知縣城嶺橋架設工事）

○日本ポルラントセメント業技術會報告（二三號）

○セメント界臺報（六月號）

○警察協會雜誌（六月號）

○施工（一三卷五號）
（內山實氏＝タナーセ鉸の壓縮試驗に就いて）

○水利と土木（一〇卷六號）（山下輝夫氏＝歐米の土木事業）

○土木學會誌（二三卷六號）

○土木（二四號）
（二階堂淸氏＝道路に於ける各種交通分離に就いての私見）

○技術日本（六月號）
（今井哲氏＝近頃の道路の問題二三、樋口寛三氏＝市政革新問題と技術者）

○都市問題（二四卷六號）

○港灣（一五卷六號）

○汎交通（五月號）

○科學知識（一七卷六號）

○法律時報（六月號）
○觀光聯盟（五月號）
○土木試驗所報告（三七號）
（藤井眞透氏＝骨材の最大密度の粒度に就いて、山田元氏＝土の乾燥に伴ふ壓縮强さの變化、西川榮三氏＝アスファルト・タールの性質に及ぼす氣象作用の影響、特にその薄層の場合の性質變化、島田八郎氏＝コンクリートの熱的性質に關する試驗）
○鐵道經營資料（二〇卷五號及六號）
○公園綠地（五月號）
○大大阪（一三卷五號、六號）（科學大阪の誇り）
○自警（六月號）
○觀光聯盟情報（一卷六號）
○日月評論（創刊二十周年記念號）
○石油情報（五月號）
○汎交通（六月號）
（布施勝治氏＝スターリン政權に就て、黑河內四郎氏＝東京高速鐵道株式會社工事の近況）
○技術日本（一七一號）（川口市に於ける鐵鐵鑪の現狀）
○東大陸（七月號）
○臺灣技術協會誌（一輯三號）
○自動車交通事業法關係各府縣令集（陸運法規研究會編纂）

◎價値社會學

ソルボンヌ大學教授　ブーグレ著　河合正道・河合弘道共譯

價値は社會生活の指標であると云ふも過言ではない。社會的變換期に於ける唯一の指導原理は價値の正しき認識にあらねばならない。

在來の個人的、觀念的範疇の前現下に於ける價値を、集團事象の前提下に拉つし來つて究明、解剖のメスを振ひ、美術に、教育に、宗教に、產業に、科學に、將亦政治に凡ゆる社會生活の領域に亙つて正しき價値認識を提唱したる本書は、不安と焦燥に混迷せる現代社會への良き示唆たり得る。

輓近產業經濟上に於ける土木行政の價値が種々なる視野から再檢討されむとしつゝある秋まさに一讀に價するものである。（東京・神田・三笠書房　定價二・三〇）（六・二二　龜生）